

WITH LIFE

共に生きる

2017
ウィズライフ
第46号

テーマ

共に働き喜びを分かち合う



私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため

尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう

心からお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

理事長 土屋 公三

WITH LIFE 第46号 目次

- 4 ノーマライゼーション特集 ①事例紹介
共に働き喜びを分かち合う
新得共働学舎（農事組合法人共働学舎新得農場）
株式会社特殊衣料
- 8 ノーマライゼーション特集 ②代表者対談
自分の居場所があって仲間がいるから働くことが楽しい！
農事組合法人共働学舎新得農場
代表 宮嶋 望さん
株式会社特殊衣料
代表取締役社長 池田 啓子さん
- 12 明るいフクシ探検記 元気カフェ
- 14 生きがい空間 探訪 札幌市 菊地 弘明さん・真澄さん
- 16 福祉住宅建築助成事業 優良福祉住宅の実現企業を表彰
- 18 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2017年11月1日発行

発行人／土屋公三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会 ●取材・文／大藤紀美枝 ●写真／酒井伸一
●編集総括／奥野 彰 ●レイアウト／高部友恵 ●表紙イラスト／佐藤正人 ●題字／須田照生

【印刷】株式会社須田製版

我らサポーター ②

菊地

弘明さん (八五)

北海道科学大学名誉教授 工学博士
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団理事



家庭菜園は多種多彩。今年は花豆が特によい出来。

長年、北方型住宅および福祉の先進地を視察し、見分を研究に役立て、世に広めてきた菊地弘明さん。「実験住宅」として建てた築四十九年の自宅で、いま探究するのは「在宅自立」。

「この年になると頑張るにも限界があるし、健康でなければ頑張れません。」

健康の秘けつは、やることがあることです」

目下、一番の楽しみは家庭菜園。

花と野菜が混在する「ジャングル」に出て、朝に夕に水をやり、世話をする。

適度な運動になり、収穫の喜びや

味わう楽しみも加わるから一石二鳥の上をいく。

「高齢期に備え、家の中と周りに、

生きがいになる仕掛けを

作っておくことをお勧めします」

冬場は体調に合わせてゆっくりり雪かき。

運動と捉えれば

充実感もひとしおだ。

写真／酒井伸一
取材・文／大藤紀美枝



命を慈しみ、
いつしか
ジャングルに

共に働き 喜びを分かち合う

ハンディキャップのある人もない人も
互いを尊重し、共に生き生きと働く……
そうした事業体を先進的に営む
二つの事例と代表者を紹介します。

取材・文／大藤紀美枝

新得共働学舎、 特殊衣料とは

健全経営でよい製品を生んで
いる企業や団体は、誰しも
応援したくなるものです。高
齢、障がい、病气など、一般に
就労には不利とされる状況の
人も働き手として大切にされ
ていると知ればなおさらです。

ナチュラルチーズで有名な
新得共働学舎は、北海道十勝
の新得町にある牛乳山の斜面
のふもとに広がる農場で、自
閉症、アスペルガー症候群、弱
視、てんかん、統合失調症、
そううつ、ひきこもり、元ホー
ムレス、元受刑者など、さま
ざまな生い立ちや個性を持つ

た人が、酪農やチーズ作りな
どにひかれて農場に集った人た
ちと、共に暮らし働いています。

新得共働学舎の形態は独特
です。いわば一種の家族で、
そこに雇用関係はありません。
組織としては、NPO共働学
舎の一員である新得共働学舎
と農事組合法人共働学舎新得
農場とが同居している形で、
メンバーの大部分は新得共働
学舎に所属し、農事組合法人
に労務提供しています。つま
り、一家で法人の下請けをし、
その売上収入により暮らして
いるわけです。

一方、アポネット（頭部保
護帽）で注目を集める特殊衣
料は、札幌市西区に四階建て



新得共働学舎の食堂前。集合写真を随時撮影している。◎

新得共働学舎（農事組合法人共働学舎新得農場）

上川郡新得町字新得9-1
TEL.0156-69-5600 FAX.0156-64-6162
<http://www.kyodogakusha.org>

1978年にスタート。牧場内の「ミントル」では自家製チーズを中心
に、パン、手工芸品などを販売し、カフェではそのチーズをたっ
ぷり使ったピザなどの料理を提供。現在、約100haを使用し、酪
農と畑作を中心とした仕事により、さまざまな生い立ちや個性を
持つ約70人が得意な技を発揮し自労自活を行っている。



● 製品の一例

『ナチュラルチーズ』

自然の摂理のままの酪農を営み、欧州
の伝統的なチーズ製造技術をもってフ
レッシュ系からハード系まで、多種製造。
国内外のチーズコンテストで常に高い
評価を得ている。◎

※◎印の写真は新得共働学舎、①印の写真は特殊衣料提供。

の本社を置き、全社員中、約二二%が六十歳以上で、その中には七十歳以上の人もいます。知的・聴覚・身体・発達などの面で障がいのある人も活躍しています。また、同社では札幌市若者支援総合センターとの連携でひきこもり、ニートの若者を受け入れており、継続就労を実現している人がいます。

特殊衣料の障がい者の積極雇用と充実した支援体制は、今日、全国に知られるに至り、二〇一六年には「第十三回企業フィランソロピー賞・生きるは幸せ賞」を、二〇一七年には「第七回日本でいちばん大切にしたい会社大賞・審査委員会特別賞」を受賞しています。

新得共働学舎の食堂前に集合した写真にも、特殊衣料の正面玄関前に集合した写真にも、「ここが好き、今が楽しい！」という思いがストレートに表れています。

なぜ、そう思えるのか、笑顔が生まれる背景を探ってみました。

家族のように暮らし 牛を飼いチーズを作る

新得共働学舎は、故宮嶋眞

一郎さんが、弱い人間が淘汰されてしまう競争社会ではなく「協力社会を」、お金がなくても自由と尊厳をもって生きていける「手作りの生活を」、法律や行政に依存するだけではない「福祉事業への願い」、他を愛し共に生きることができ「真の平和を求めて」、この四つの理念を土台に、一九七四年に共働学舎を設立したことに端を発します。

眞一郎さんの長男で新得共働学舎を率いる望さんは、こう語ります。

「父は、学校教育から落ちこぼれている人こそケアされるべきと考え、実践教育の場として共働学舎を設立しました」
現在、共働学舎は長野県に二カ所、東京都に一カ所、北海道に三カ所あり、四つの理念を、それぞれ特色ある形で実践しています。

さて、新得共働学舎の特色は、何と言ってもナチュラルチーズ作り。その歩みは、想像を絶する苦闘と大きな発見、深い感動の連続でした。

宮嶋望さんの著書『共働力』によれば、この地に着いた当初は、住宅や牛舎はおろか、水道も電気もない状態で、宮嶋さん親子三人と三人の男性、



特殊衣料の本社社屋前で撮影した社員の集合写真。①

株式会社特殊衣料

札幌市西区発寒14条14丁目2-40
TEL.011-663-0761 FAX.011-663-0955
<http://www.tomoni.co.jp>

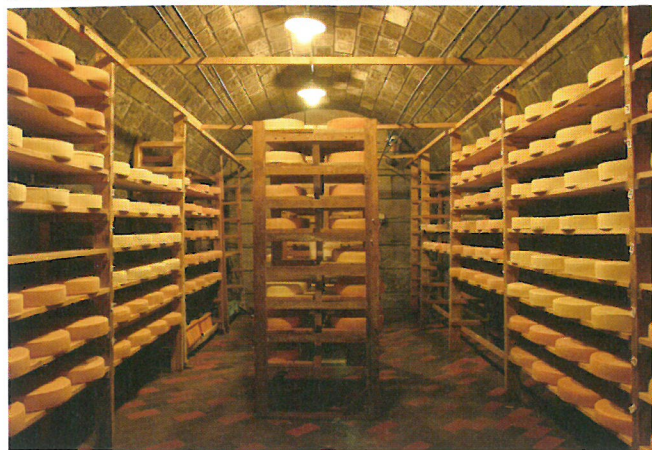
1979年設立。病院・福祉施設向けリネンサプライと清掃業務、自社ブランドによる福祉用具の企画・製造・販売などを行う。社員総数180人。女性の雇用は男性の約2倍。60歳以上の人、障がいのある人、病気を持っている人も共に働いている。



●製品の一例

『アボネット』

てんかん発作のある社員を守りたい思いがきっかけとなり開発した頭部保護帽。自社縫製工場で作作りし、バリエーションは50種類以上。写真は「アボネットシティ クロッシュ」のベージュ。①



上/新得共働学舎：農場内の放牧地で草を食む牛たち。◎
下/新得共働学舎：温度・湿度管理を徹底するチーズ熟成庫。◎



宮嶋望さんの著書
(2017年、地湧舎発行)

自家製。食事が一段落したところで、順番に「今日、これをやる」と自己申告し、持ち場に向かいます。
「自主性を何より尊重しています」と宮嶋さん。
仕事のタイムスケジュールおよび持ち場（牛舎や圃場など）の担当はほぼ決まっていますが、誰かの仕事が忙しければ手を貸し、カバーし合うのが新得共働学舎流。ごく自然にそうなっていたのだそうです。

ジブブコーチを配置 保護者とも連携

特殊衣料は、その名のとおり、病院や福祉施設を対象としたリネンサプライを中心に事業を行っている会社です。
清掃部門はリネンサプライを利用してはいる病院や福祉施設からの働きかけを機にスタート。福祉用具部門は、販売、レンタルを行っているほか、オリジナルの福祉用具を企画・製造し販売しています。

特殊衣料を率いる池田啓子さんに、同社が障がいのある人を雇用するようになったきっかけを訪ねると、「高等支援学校から生徒さん一名の実習依頼があったんです。一九九〇年のことです。彼が明るく元気に働く様子を見て安心し、引き続き実習生を受け入れていきます。彼は、その後社員となり、リネンサプライ部門担当で二十六年間、勤務してくれています」とのこと。

二〇一七年七月一日現在、同社では知的・身体・精神・発

到なグラウンドデザインの下で整備されており、緑の風景に人も牛も羊も馬も溶け込んでいます。
さて、メンバーは、ここでどんな仕事をしているのでしょうか。

「乳牛を飼っていますから、毎朝、搾乳しなければなりません。牛舎管理をするメンバーは、朝、五時前から牛舎に行つて、清掃し、餌をやり、搾乳をしています」と宮嶋さん。

新得共働学舎では、毎朝七時三十分に朝食を知らせる鐘が鳴り、牛舎でひと仕事終えた人も今起床した人も食堂の一階に集まり、食事をします。チーズや牛乳をはじめ、パンや野菜、卵など、ほとんどが

牛六頭からスタート。牛の数よりも、悩みを抱えてやってくる人の方が多く、宮嶋さんは収入を上げるため、生乳に付加価値をつけることに知恵をしばったそうです。

「学舎のメンバーは超スローペース。人が一年で習得できることが五年や十年はかかる。サイクルが早いものには手を出せない。いちばん時間がかかって、みんなが手を出さず、流行にかかわないものは何か」（『共鳴力』より抜粋）

考え抜いた末、行きついたのが熟成期間を要するセミハード系およびハード系のナチュラルチーズ。試行錯誤はあったものの、素材・技術・環境を整備し、一九九八年の

自主性を尊重 約束事で縛らない

自分たちの農場が生産する製品が、世界的な評価を得ることで、それが喜びになり、自信になるのはいままでありません。

新得共働学舎の農場に足を踏み入れて、まず思うのはそのすがすがしさ。場内は、周

「話すときは相手の目を見て話します。目は脳の神経とじかにつながっているから、イメージが共有でき、目を見て話すことで理解が進みます」

「うちは、約束事を書き表しません。書き表すと、みんなの中に約束を守らなければならぬという意識が生まれるからです。約束を守れない人がいて、その人を責めるようになると、自由な発想が出てこなくなりません。また、約束厳守にすると、無理をさせてしまうことにもなりかねません」
手作りチーズの第一人者ともあって、宮嶋さんは国内外を東奔西走する毎日ですが、メンバー一人一人をよく見ています。

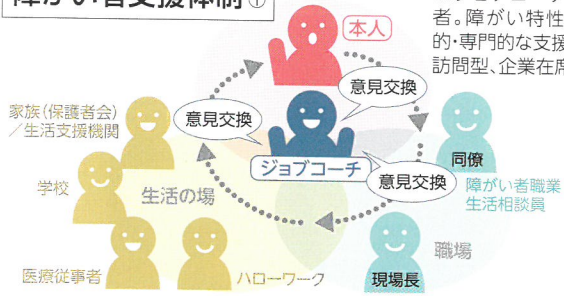
「話すときは相手の目を見て話します。目は脳の神経とじかにつながっているから、イメージが共有でき、目を見て話すことで理解が進みます」

話すことで理解が進みます」



特殊衣料での障がい者支援の一事例。カードや色づかいを利活用している。①

特殊衣料の障がい者支援体制①



※ジョブコーチ: 職場適応援助者。障がい特性を踏まえた直接的・専門的な支援を行う。配置型、訪問型、企業在席型がある。

同社では、交通機関での迷惑行為やカードローンの利用など、障がいのある人の生活に関する問題を保護者と一緒に考え解決していこうと、「やよい会」を発足。打ち解けた

時には同僚として助言したり、障がいのある社員の保護者とコミュニケーションを図るのもジョブコーチの大切な務めです。

「当社は企業在席型ジョブコーチをリネンサプライ部門と清掃部門に各一名置いています。本人の様子を見ながら、どうすれば、その仕事ができるようになるか。また、克服できない壁は何かなどを検討・判断しながら、作業遂行する力の向上を支援しています」と池田さん。

何らかの障がいがあれば、技能を習得するにも勤務するにも支援を必要とすることが多々あります。池田さんによると、最も効果があるのはジョブコーチ制度。

達の面において何らかの障がいのある人を二十七人(男性二十人、女性七人)雇用しており、その人たちの平均年齢は四十三歳、平均勤続年数は十五年に及びます。



上/特殊衣料: 縫製工場は本社3階に。

下/特殊衣料: 洗濯・乾燥させたタオル類を手で量んでいく。

働くことの意義を共に考え理解する

特殊衣料の自社製品などを製造している縫製工場は、広々として明るく快適そのもの。リネンサプライ部門で見つかった破れなどを専門に修繕するスタッフもいます。

リネンサプライ部門は、社屋の一〜二階にあり、大きな機器がフル稼働。同社では、

※リネンサプライ: 利用者が必要とする物を有償で貸し出し、回収して洗濯や補修をしたのち、また貸し出すシステム。

関係が築かれ、「親つき後のこと」となど、それぞれが不安に思っていることや心配事を一緒に考え、「二人で悩まない体制」を整えていっています。

タオル類や肌着・衣類のリース(貸し出し)を行うとともに、病院・福祉施設の寝具や職員ユニフォームのクリーニングを行い、必要に応じてリースにも対応しています。

池田さんは、毎朝、社内を回って社員と挨拶を交わし、気づいたことは、その場で改善策を考え指導します。

「立ち仕事をする上で、靴が一番大事です。当社では靴も支給し洗濯もしています」と言う池田さん。クリーニング工場内でも社員一人一人の靴に目をやり、傷みに気づいたら新しい靴に履き替えるよう促し、不具合を感じ取ったらその理由を本人と共に探ります。

障がいのある人が社会に出て働くために身に付けておきたいマナーをまとめ、障がい

のある人と共に働くことの意義を全社員に理解してもらおうと制作した冊子『ともにたたく』は、池田さんと社員らの労作。その第一章(抜粋)には、こう記されています。

「みんなで力を合わせて仕事をします。それが、はたらくということです」、「はたらくことで、たくさんの人に出会ったり、いろいろなことが経験できま

す。自分の仕事で人から喜ばれたり、ほめられたりするの

は、とてもうれしいことです」

長年働いてきた人は一語一語が心に染みることでしょう。深い感動を、明日に生かした

いものです。また、これから働こうという人には、「ともに

はたらく」ことを心に留めて

社会に出ていただきたいと切に

思います。



知的障がい者と支援者のための冊子(2008年、特殊衣料発行)

自分の居場所があつて 仲間がいるから 働くことが楽しい！

新得共働学舎は、来る人を拒まない学び舎です。

国内外からさまざまな人が訪れます。

宮嶋さんの取り組みに胸打たれ、

農場見学を熱望していた池田さん。

連れだって場内を巡り、語り合いました。



宮嶋(右)さんの話に熱心に耳を傾ける池田さん(左)。

SCENE 1 小道を歩きながら みんなの農場だから アイデアを出し合う

宮嶋 新得共働学舎へ、ようこそ。

池田 本日は、よろしくお願
いいたします。どこもかしこ
も素晴らしいです。何と言っ
ても空気がさわやか！

宮嶋 そうですか。それについ
ては追いついてお話ししますね。

池田 ガーデニングも見ごた
えがあります。ピオトープ(生
物生息空間)というか、池ま
であるんですね。

宮嶋 ここを管理している女
性が、「望さん、池欲しいんだ
よね」って言うから、「オー
ケー、わかった」と、山で使っ
ていたユニボ(掘削機)を持っ
てきて掘ったんです。

池田 何でもおできになる…。

みやじま のぞむ
宮嶋 望さん
いけだ けいこ
池田 啓子さん

農事組合法人
共働学舎新得農場
代表
株式会社特殊衣料
代表取締役社長

ご本やホームページなどを読
ませていただきましたが、宮
嶋さんは科学者ですね。

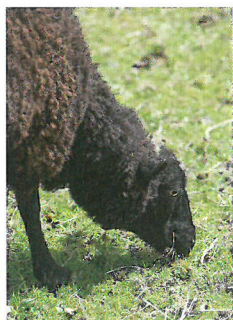
宮嶋 いやいや。学生時代、
物理学や森林生態学、農学を
学んだことが役立っています。

池田 あそこにいる牛、立派
な体つきしていますね。

宮嶋 ああ、「かえでちゃん」
ですね(笑)。高齢になって搾
乳していないんだけど、み
んなが可愛がっているものだ
から、廃用にできなくなった
んです。で、優雅な余生を送っ
ています。

SCENE 2 研修棟にて 今日やることは 自分で決める

宮嶋 ここは研修生のために
用意した棟です。この部屋で
は、コーチ役のメンバーの働
きかけにより「ぬらし絵」を



ブラウンスイス牛のかえでちゃんを筆頭に、羊も蜂も、みんなのびのび。



農場内を散策するとさまざまな生き物に会える。ただし、□の作業区域・畜舎・放牧場・畑・住居等への立ち入りは不可。



共働学舎新得農場(中心部)のマップ(新得共働学舎提供)



自由テーマで描いた「ぬらし絵」。個性がキラリ!

描いています。「ぬらし絵」は水彩画法の一つ。自由に描くだけでなく季節の移り変わりを感じさせるような言葉の働きかけをしながら一枚目はテーマに沿って。二枚目は自由画を描いてもらっています。池田 定期的に開催しているのですか。宮嶋 約十二年、毎週水曜日にやっています。池田 みなさん自主参加ですか。宮嶋 ええ。例えば、朝起きて牛舎で仕事して、朝食を食べ、その後のミーティングで、今日、何をやるか自己申告して、ここに来ています。池田 指示されるのではなく、したいことを自分で決めるわけですね。宮嶋 できることをやる。僕らは、そのきっかけを提供しているだけです。



農場のグランドデザインについて語る宮嶋さん。

池田 約十二年、毎週水曜日にやっています。池田 みなさん自主参加ですか。宮嶋 ええ。例えば、朝起きて牛舎で仕事して、朝食を食べ、その後のミーティングで、今日、何をやるか自己申告して、ここに来ています。池田 指示されるのではなく、したいことを自分で決めるわけですね。宮嶋 できることをやる。僕らは、そのきっかけを提供しているだけです。池田 できることだから、だんだん、おもしろくなってくるんですね。宮嶋 そうすると、よし、チャレンジしようという気になる!池田 みなさん楽しそう。豊かな時間ですね。宮嶋 みんな結構好きで、楽しみにしてる人が多いです。池田 宮嶋さんは、ご本に「自主性が大切」と書いておられますね。宮嶋 はい。うちには、牛、羊、鶏、豚、馬がいて、チーズ作り、野菜作り、織物とあるから、仕事もいろいろあります。仕事って、生産に限らず、食器洗いとか、食事作りの手伝いとか、掃除とか、どこにでもあつたんです。だからやりたいと思うことをやっていい。

池田 できることだから、だんだん、おもしろくなってくるんですね。宮嶋 そうすると、よし、チャレンジしようという気になる!池田 みなさん楽しそう。豊かな時間ですね。宮嶋 みんな結構好きで、楽しみにしてる人が多いです。池田 宮嶋さんは、ご本に「自主性が大切」と書いておられますね。宮嶋 はい。うちには、牛、羊、鶏、豚、馬がいて、チーズ作り、野菜作り、織物とあるから、仕事もいろいろあります。仕事って、生産に限らず、食器洗いとか、食事作りの手伝いとか、掃除とか、どこにでもあつたんです。だからやりたいと思うことをやっていい。池田 自分で見つけて、やっていくところがいいんです。宮嶋 そうそう、その彼は、野菜の皮むきがすつこく速いの。池田 まあ。そうですね。宮嶋 食事作りのペテランが「じゃがいも何十個」と彼に頼めば、地下の保管庫へ自分で取りに行つて、あつと言う間に皮をむいちゃう。彼は自閉症で、三十六年前からここに通つて来ているんだけど、こんなに皮むきが上手だったなんて、本人も僕らも全く気づきませんでした。だから、いろいろやってみることでですね。池田 皮をむくためには、自分がじゃがいもを取りに行かなければならない、そうやって、職域といいますが、できることが広がっていくわけですね。宮嶋 自分で見つけて、やっていくところがいいんです。



宮嶋 望(みやじま・のぞむ)

1951年群馬県生まれ、東京育ち。78年新得町に入植して共働学舎新得農場を開設代表に。さまざまな人を受け入れ自労自活を实践。手作りチーズで数多くの国際賞を受賞。NPO法人共働学舎副理事長。

SCENE 3 住居が並ぶ一角で心地いい場所を考えて、作る

宮嶋 こちらが男子寮と工芸スペースです。ここには裂織さきわりののための織り機があるんです。おしい、いるかい？

池田 おじゃまします。古い布を細く裂いて、それを織っていらつしやるんですね。ご自身でデザインしながら織っているのかしら。すてきですね。



裂織作りを見学する池田さん。

宮嶋 彼はこの棟の住人です。池田 いいですね。ご自分の部屋があつて、織りたいときに、織ることができて。

宮嶋 それぞれ持病があつたりするから、ちよつと休んだりしながら織っています。それでいいですよ。

池田 幸せですね。お一人お一人が暮らしやすい環境つて、そうそう作れないですよ。

——再び、屋外へ。

宮嶋 これが、最初に建てた建物です。今残っているのは、その一部。隣が食堂です。

池田 デザインがおしゃれ！

宮嶋 こういう造りになったのには理由があるんです。暗いところに入りたがる人がいますからね、日陰の席で食事したいから、その席を確保したいがために、仕事が手につかない状態でした。で、意地悪

な僕は、何を考えたかというのと、食堂を全面ガラス張りにして日陰を無くしたんです。そうしたら、もう空いている席に座るしかない…。池田 暗いところを好むということは、その方、多分、鬱うつが入つてらしたんですね。でも鬱は、お日様に当たると改善するんですよ。

宮嶋 そう。だから日の光が入るように設計したんです。陽あの光を呼び込むためには、陰のエネルギーが必要ですから、地下に炭を二トン入れて

いるんです。池田 道理をわかつていけばこそ、意味のある意地悪ですね。

宮嶋 みんな、食堂が好きですね。集まって、朝食、昼食、夕食を食べているんです。家族のいる人は、朝食と夕食を

自分の家で食べているけれど、昼食はここで食べるから、六十人以上になつちゃうんです。池田 こちらでとれた野菜やチーズを召し上がつていらっしゃるんですよ。うらやましい。

SCENE 4 田んぼからチーズ工房へ「ありがとう」が喜び、安心感に

池田 それにしても、国からの補助金をいただかないで、

これだけ人数がいて、これだけの場を成り立たせるなんて…。うち(社会福祉法人とも福祉会)は補助金いただいていますが、宮嶋さんの取り組みのすごさ、大変さがよくわかります。

宮嶋 農場では、心身に妨げを抱えている人や社会に居場所の見つけられない人たちが半分ぐらい働いていて、あとの半分は酪農、チーズ、農業、養豚、養鶏、工芸などの技術を持つている人たちです。有機栽培がやりたくて来たけれど、みそ作りに興味をわいて、そつちに励んでいる人もいます。この田んぼ、以前、サッカーしていたところなんですよ。

出張から戻つたら、こうなつてた(苦笑)。メンバーには、しよつちゅう驚かされています。

池田 それぞれが、やりたいことが自由にできる環境を用意するつてことが、すごいです。宮嶋 そうですかね。先ほどのじゃがいもの皮むきの話にしても、いろんなことをやってみて、それが認められ、「頑張れよ」と励まされる…。彼らの一番の願いは、周りの人に「やつてくれて、ありがとう」と言われることなんです。

池田 私もそう思います。「ありがとう」は、人の心を動かす言葉ですよ。

宮嶋 食べるのと、寝るところはある。しかし、自分の存在を認めてもらえるところがない。そういう状況にある人たちが、ここに来ています。で、自分がやったことが周りに認められ、感謝されると、安心するわけです。つまり、受け入れられていると、実感できるから。

寮に入っている人もいれば、通ってくる人もいますし、障害者年金などこつこつ貯めたお金を出し合つて、ここに自分たちの家を建てたメンバーもいます。今、僕の家族は、てんかんの発作が起こる、弱視、統合失調症で見守りが必要という人たちと一緒に住んでいます。



左が当初からある建物。右が食堂。

池田 「ここに、いつまでもいい」という安心感は、何よりですね。我が家って、そういうものでもういい。

宮嶋 さあ、チーズ工房に行ってみましょう。

池田 拝見できるんですか？

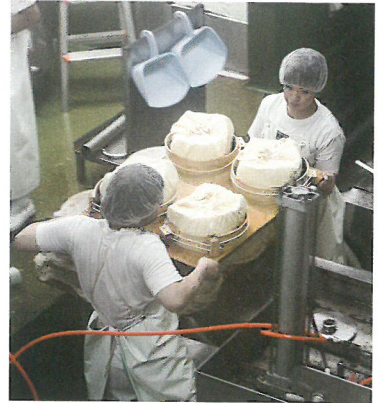
宮嶋 二階に見学コーナーを設けています。

——チーズ工房内。

宮嶋 今、熟成庫で熟成させるチーズ、ラクレット（セミハード系）の基となる部分を作っているところです。一塊五キロあるんですよ。

池田 そうですか。こちらには賞状がいっぱいありますね。みなさんの宝物ですね。

宮嶋 はい。僕らがこうして



チーズ工房の見学コーナーから窓越しに撮影した作業風景。

たんです。皮むきの速い彼の話が重なりましたが、メンバー一人一人に、いろんなエピソードがあり、一人一冊の本が書けるほどです。

SCENE 5 多目的施設「カリンパニ」で多様性を生かしたチームプレーを実践

池田 施設や取り組みを拝見して、いろんなところに専門性を感じました。

宮嶋 いらっしやってすぐに、「空気がさわやか」とおっしゃったでしょ。牧場特有のにおいもないし、ハエもない。それは、牛舎、チーズ工房、住宅、牧草地などの地下に大量の炭を埋めているからなんです。この「炭埋」が電磁気現象を起こすことにより、環境バランスを望ましくしているんです。

池田 生産や生活の隅々に科学を生かしていらっしやるんですね。当社は、課題に向き合う中で、自然に多様な社員構成が形づくられてきました。そのこともあり、宮嶋さんが重要視される「ダイバーシティ（多様性）」に特に共感しておりました。改めてお話し願えますか。

宮嶋 父・宮嶋眞一郎は、よくこう言っていました。「個人個人はジグソーパズルのピースのようなもので、欠けている部分もあれば、得意な部分もある。各人違うからこそ、それぞれ補い合うことができる。ピースを一つ一つはめていけば、一つの絵になる」と。

社会福祉法では、同じ障がいのある人を集めて、安全に暮らせるよう管理する体制づくりが求められますから、体が

ている「共鳴現象」についても、ぜひ伺いたいです。

宮嶋 共働学舎は「競争ではなく協力を」と言っています。協力って、気持ちと気持ちが合わさらないとできないじゃないですか。僕の好きなサッカーに例えると、気持ち共鳴したときに個々人のプレーがつながって点を取れる。つまり、チームプレーの成果なんです。

ここもそう。手を使う仕事しかできないけれど器用な人、トラクターの操作がうまい、僕のようにしゃべるのがうまいやつ。チームプレーだから、全体で一つのことがうまく回る。それぞれの気持ち共鳴したときに、糧となるチーズがうまくできるというわけです。

池田 なるほど。じきじきにお話を伺って、日常生活はもちろん、企業活動の場でも、自主性を尊重して得意分野を生かし、チームプレーをもつてすれば生産性が上がり、心も満たされるということを確信しました。ありがとうございました。

宮嶋 いつでも気軽にお越しください。お待ちしております。
(二〇一七年八月三十日
新得共働学舎にて)

社会福祉法人ともに福祉会

札幌市西区発寒14条14丁目2-23
TEL.011-663-0200

知的障がいのある人たちが安心して働くための入り口と出口をと、2004年に設立。09年から就職、訓練、活動の3コースを提供。定員40人。就職コースでは、2年以内に就職という国の施策に沿って、本人の適正に合った職場探しと、就職および就職後のサポートを行っている。「ともにアートギャラリー」（入場無料）を併設。

池田 そうでしたか。ご本に書かれた不安定といった心身に妨げのある人もない人も共に暮らす共働学舎は、社会福祉法人にならなかつたし、また、なれなかつたんです。

池田 そうでしたか。ご本に書かれ

(二〇一七年八月三十日
新得共働学舎にて)



池田 啓子 (いけだ・けいこ)

1949年北海道生まれ。84年に株式会社特殊衣料(札幌市)に入社。96年代表取締役社長に。障がい者雇用に熱心に取り組む成果を上げる。04年社会福祉法人ともに福祉会を設立、理事長に。

元気カフェ

宮田屋 @札幌市役所ロビー

2010年オープン。
スタッフ7名のうち、知的障がい・精神障がい
などを持つ人5名が元気に働く都庁のアジス。

元気カフェの
流儀・その2
スタブだけど**本格派**。

★はるかさん(19)
コーヒー修業中。
4人分のドリップコーヒーは
任せられます。
会計レジも担当します。



★運営事業者は
もともとコーヒー店。
手に淹れる香り高いコーヒーが
リーズナブルに
いただける!
テイクアウト
¥270~
サブイックも充実



元気カフェの
流儀・その3
デザインに
こだわりあり!

★札幌の開拓の歴史を題材に
細部までこだわりぬいた内装



地元作家の
デザイン

★家具モックアップの
制作は地元

「御用材」
開拓時代の
材木場を
イメージ

「SHIMA-IZM」
さほろの「S」と
「己」の文字をイスに!

ゆるゆる
ゆるゆる
ゆるゆる

**管理 &
スタッフ教育!**



★副店長の菅原さん
やさしいお母さんのまなざし♡



★店長の津島さん

お店オープン当初から
ずっと見守ってきました。
「一人一人個性と
レベルはそれぞれ。その
良いところを拾って
つないでいくこと
が大事。
コミュニケーション
と絆を
深めています」

障がい者
職業生活相談員
です

時にきつく、時にやさしく。
7名賛諾を持ち取組み中!

明るいフクシ 探検記



文・イラスト
伊藤千織

元気カフェ

働くことは難しい?

日本国内において、身体・知的・精神など何らかの障がいがある人は約790万人、人口の6%、実に16人に1人の割合だ。

一方で、障がいがありながら企業で働く人は47万人。国が定める障がい者雇用率の2%、つまり100人に2人の雇用を達成している民間企業は半分程度と、まだまだバランスが合っていない状況だ。

札幌市では平成18年から「札幌市障がい者協働事業」に取り組んでいる。障がいのある人となない人が一緒に働く環境作りをめざし、一定の条件を満たす事業者に対して運営費の一部を補助するという制度で、清掃業務からIT関連、ネイルサロンまで、現在23事業所が補助を受け、障がいのある人が働いている。

市が支援する「共に働く職場づくり」

中でも特徴的なのが、「元気カフェ」だ。市内の公共施設を有効活用し、喫茶店業務を行っている。障がいのある人となない人が一緒に生き生きと働いている姿を見ても、障がいに対する市民の理解を深め、さらには民間企業などでの障がいのある人の雇用の促進を図ることが目的だ。

「元気カフェ」の店舗は、1号店である社会福祉総合センターの「ふらっと」を始め、札幌市役所ロビーの「宮田屋」、中央図書館ロビー内「本の森」、白石区複合庁舎に



●元気カフェ <http://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/syurou/genkicafe.html> (札幌市のサイト)
 「元気カフェ宮田屋」(事業者・株式会社宮田屋珈琲) 札幌市役所1階ロビー

新設された「ブラン」の4ヶ所。各店異なる事業者の運営で、内装にも趣向を凝らしそれぞれの個性が光る。単なる待合空間だった場所が、人が集まりやすい良い雰囲気になったと市民の評判も上々。ハローワークでも人気の職場だ。

結局は人と人

場ができればすべて解決、という訳ではもちろんない。待遇や業務内容以上に大切なのが、働き方の相性や職場の人間関係。精神障がいや知的障がいは見た目からは判断しづらく、実際にその人と一緒に過ごしてみないと分からないことも多い。手先の不器用さや言語理解の難しさ、生活習慣の未熟さなど実務的な課題の場合もあれば、傷つきやすさや失敗への恐怖など、目に見えない心の問題の場合もある。

雇用する側のマネジメント力も試される。働く人の個性や得意なことを生かし、双方が理解し合い、譲り合い、尊重し合いながら、集団の中の新しいやり方を作り出していく。苦労もある反面、前にはできなかったことができるようになることは、一緒に働く人みんなにとっての喜びだ。

協働に大切なのは、「コミュニケーション、工夫、環境整備、思いやり」。あれ？それって普通の職場でも一緒だよな。人と人が一緒に働く基本に、障がいの有無は関係ないみたいだ。

●札幌市
きくち
菊地

ひろあき
弘明さん
ますみ
真澄さん

柔軟な発想でバリアを活用に転化 住み慣れた家で「在宅自立」を実践

実験を試みた 築四十九年の家

菊地弘明さん（八五）・真澄さん（八二）は、一九六八年に建てた家で五人のお子さんを育て上げ、夫婦二人、悠々自適の毎日を送っています。

研究所や大学で積雪寒冷地の住宅のありようを研究してきた弘明さんは、自宅や家庭を持ったお子さんたちの住宅建設においても実験を試みしました。

「実験住宅一号」が、スキップフロアの家（築四十九年の自宅）。スキップフロアとは、床の高さをずらして中間階を設け、空間を立体的に活用する手法で、弘明さんはお子さんたちのプライベート空間を確保することを第一に考え採用したそうです。

続いて、繊維系と石油系の断熱材を組み合わせ、各々の

長所を生かす大型パネルを用いた住宅を約三十年前に北隣に建設。電柱、電線が地上にある日本では、工場で作った大型パネルを現場で組み立てるのに困難を伴うため、南隣に長男・研さん一家のお宅を立てるに当たっては、小型パネルを採用したとのこと。

「パネル工法は、うまくいきませんでした」と、二棟の高性能に胸を張る弘明さんですが、「実験住宅一号」は、断熱・気密の概念が確立していない時代の建築とあって、「後から建てた家と比べると、暖かくないの：」と苦笑い。また、一階と二階の間に中二階、一階の下に半地下という造りのため階段が多く、加齢とともに上り下りに危険が伴うようになってきたのも事実です。

「子どもたちから転居案が出ましたが、真澄さんの住み慣れたこの家で」との意見を



住まいのノーマライゼーションに関する菊地弘明さんの著書

尊重して、ここで在宅自立に励むことにしました」と弘明さん。

設備面においては、理学療法士で福祉の仕事に就く次男・伸さんが先頭に立って、手すりや人感センサーライト、階段滑り止めマットなどを設置して安全・安心度をアップ。自身の健康維持においては、予定を立てて目的意識を持って取り組むことを旨としています。



リビングで愉快的なエピソードを交えシニアライフを語る菊地夫妻。



右／納戸になっている半地下に続く階段。人感センサーライトが足元を照らす。
左／リビングから書斎のある中2階へ続く階段には、壁に手すりを設置。



閑静な住宅街にある菊地宅。エントランスに日光をとおす屋根をかけ、雪対策と明るさに配慮。玄関は階段を上った右奥に。

適度に運動し 自然と語り合う

最近の暮らしぶりを弘明さんに訪ねると。

「階段の上り下りを運動と捉えれば、バリアを『活用』に転化できます。また、単なる散歩ではなく、近くの郵便局にはがきを出しに行くなど、目的を持って歩くようにしています」とのこと。

元来、自然志向の弘明さんは、家庭菜園に楽しみや喜びを見出し、春から秋にかけて、その手入れに余念がありません。朝顔やコスモスと共に、ハーブ類、キュウリ、トマト、豆類、トウモロコシなどが葉を広げ、花を付け、チョウが舞い、ハチも飛び回っています。



庭のブドウ棚は弘明さんのお手製。積雪時の荷重にも配慮している。

「よい種を選び、温室で苗を育て、庭に植え込んで、水をやったり、まめに手入れをしてやると、植物は素直に伝えてくれます。無理せず、調子のよいときに適度に体を動かすとよい運動になり、心も癒やされます」と弘明さん。

庭で最も場所を取っているブドウ棚は、弘明さんが構造を考え、ホームセンターで工事の足場用のパイプを買ってきて組み上げた力作。今年は豊作とあつてご満悦です。

刺激し、高め合い 元気で毎日を楽しむ

庭でとれた野菜を調理するのは、栄養士免許を持つ真澄さん。公務員として道民の食生活改善の啓発に努めていた真澄さんを、弘明さんのお母さんが見初め、仲を取り持つて一九五九年に結婚。以来、真澄さんは栄養バランスのよい手料理で家族の健康と成長を支えてきました。

「お野菜は大事ですから、自家製はうれしいです。いくら偏らない食事を心がけていても、高齢になると、たんぱく質不足になりがちなので、お肉やお豆腐はさちちと取るようにしています。お魚もよく食べますが、

カルシウムのサプリメントも活用しています」と真澄さん。

知的で思慮深く、相談に乗ってくれる真澄さんを信頼する人は多く、七十五歳まで約十五年間、民生委員・児童委員として活躍。今も手紙を書くことを日課とし、弘明さん撮影の写真を印刷した季節感あふれるはがきが大いに役立っています。

「隣り合って住んでいると、われわれが家の周りをちよろちよろしている姿が自然に目に入りますから、子世代も安心だろうと思います。」

今の時代、高齢者を受け入れる施設にでもホームにでも逃げ込んでしまうことは可能ですが、国の財政や若い世代の負担を考えると、やはり健康で在宅が望ましいと思います。在宅自立をかなえるための知恵を出し合わなければなりません」と弘明さん。

八十歳を過ぎ、一日三食、手作りでは大変だろうと、弘明さんが「夕食は配食サービスの利用を」と提案しても、「食材を吟味して手作り」を貫いてきた真澄さんは、あつさり却下。そうした攻防もまた、心身の健康を維持するよい刺激になっているようです。

優良福祉住宅の実現企業を表彰

福祉住宅建築助成事例集「ふれあい」担当 西村裕広

当財団の設立以来毎年実施している福祉住宅建築助成事業。今年度から、特に優れた参加作品の設計・施工に携わっていただいた企業に対して、感謝状を贈呈させていただきます。福祉住宅への取組みの証しとしていただくのが目的です。

信頼できる技術を持つ企業を知っていたく

建築物のバリアフリーは、国が定めている基準をクリアしただけだと、障がいによって対応できないケースが多々あります。しかし住宅建築では国の基準のみクリアするだけでバリアフリーを標榜している事例を多く目にします。確実な実用性はもちろん、心の面でも快適に生活できる配慮が行き届いている福祉住宅を実現している企業は、まだまだ少ないのが現状です。

とはいえ、福祉住宅造りに真摯に向き合う姿勢の企業が確実に増えていることを、当財団実施の福祉住宅建築助成事業に応募いただく事例を見ながら実感しています。一般的にはまだ名の通っていない小さな企業、工務店、設計事

務所の、驚くほど見事な事例の参加もいただくことがあります。技術的な部分以外にも、例えば工事開始の時期などで、小さな企業ならではの柔軟な対応により建築主さんが大いに助かった、という事例もあります。

当財団の福祉住宅建築助成は、どの様な企業が優れた福祉住宅造りに取り組んでいるのかということ発信することも、大きな目的のひとつです。そこで新たに「この企業なら福祉住宅建築を安心してお願いができる」という一つの証しとしていただければという思いを込めて、優れた応募事例を設計・施工された企業に対して感謝状を贈呈させていただきました。感謝状は応募いただいた作品の中で特に高得点を獲得した企業に対して贈呈させてい

ただきました。初となる今回の対象は3事例、4企業で、いずれも福祉住宅建築助成事業には初のご参加となる企業です。

ベテラン設計事務所と福祉住宅初挑戦の企業

T様邸は深川市の新築事例ですが、設計は札幌の(有)伊達計画所、施工は旭川の(株)創樹が携わりました。もともと建築関連のお仕事をされていたT様は「障がいがあっても希望を持てる家」と願い、プロの眼から見て全幅の信頼を寄せることができる2つの企業に家づくりを託しました。(有)伊達計画所は過去にも福祉住宅設計の経験があるそうです。(株)創樹は2013年に設立された若い企業で、これまで福祉住宅の経験は皆無だったそうです。しかし見事な完

(有)伊達計画所／(株)創樹

T様邸を設計した(有)伊達計画所のベテラン一級建築士・伊達昌広代表(写真右)と、施工した(株)創樹の吉口清代表取締役専務(写真左)。「住まいはやはり完成直後の施主様の感動が大きいものですが、10年住んでいた後の評価によって、真に成功したか否かが決まります」と言い切る伊達代表。ただ見た目の良さだけではなく、住んでみて快適であることが最も重要だという信念のもと、これまで設計という仕事に携わってこられたそうです。ちなみにT様邸はデザインも秀逸です。



成に。T様の満足度は百パーセントです。

もちろん福祉住宅を建設する上に置いて、設計・施工企業に豊富な経験があるに越したことはありません。しかし今回の(株)創樹は初めての福祉住宅です。これまで、福祉住宅に携わった経験が皆無で



も、非常に優れた事例を実現した企業が福祉住宅建築助成の対象になったことがあります。T様邸も、建てる側に確かな技術、柔軟な発想、そして建築主に対する真摯な姿勢があれば、優れた福祉住宅が実現できる、ということを実証する事例でした。

全社一丸で向き合う 老舗の建設会社

稚内のA様は、重度障がいのある息子さんが成長するに連れ介護が大変になり、その悩みを解決できる住まいの新築に踏み切りました。依頼したのは地元稚内に本社を置く石塚建設興業株です。

創業一〇〇年を越える石塚建設は、建築だけではなく不

動産事業にも携わっています。A様が新築する用地を探したのが石塚建設だったという縁で、新築も相談されたようです。

取材してわかったのは、石塚建設の社内での連携、風通しの良さが、優れた実例を実現していることでした。長い社歴に比例して、これまで多くの福祉住宅を手掛けた実績

がある石塚建設には、福祉住宅に精通したスタッフが育っているそうです。これまで福祉住宅の担当経験がないスタッフでも、そうしたベテランにアドバイスを仰ぐことができ体制が整っています。今回のA様の要望は、国の建築基準に合わせるだけでは決して解決できませんでしたが、石塚建設のノウハウで見事にクリアしています。

石塚建設興業株

A様邸を新築した稚内創業の100年企業、石塚建設興業株。営業部の吉川朝一課長補佐(写真右)は一級建築士の有資格者。先輩の設備部・石井和雄部長代理(写真左)と共に今回の新築を担当した。「息子さんを抱きかかえながらスムーズに車と家の出入りできる」というA様の最大の要望をビルトインガレージで解決。



住宅のプロが惚れこむ 実績と経験豊富な企業

進行性の難病がある札幌のM様は、お住まいのマンションを、先々自立生活ができるようにと、二度目のリフォームを行いました。依頼したのは一度目と同じ(株)愛夢です。札幌のほか東京にも事務所を置く愛夢は、大型の施設や病院などの実績が豊富。技術的な信頼感が強い企業です。もともと住宅関連のお仕事をされていたM様は、以前から愛夢と仕事でのお付き合いがあり「もし自分が新築やリフォームをするなら愛夢」と、決めていたほど、信頼度抜群でセンスのある仕事をされていたそうです。難病になった際も、迷わず

(株)愛夢

M様邸のリフォームを一手に引き受けた(株)愛夢の佐藤仁彦代表取締役。同社を設立される以前に勤務していた企業でも、病院や大型高齢者施設の新築やリフォームに携わった経験が多数。今回のリフォームでは、制約の多いマンションをM様の要望や身体状況に合わせて改修した上に、価格を抑えるための様々な工夫も施した。



しっかりと単独で行うことができ、今回のリフォームが大成功したことを体感することができました。

リフォームを依頼しました。福祉住宅はプランをしっかりと練り、それにしっかりと沿って施工したとしても、実際に生活してみても初めにミスが見つかるというケースが非常に多いです。M様はご主人と2人で暮らしていますが、このリフォーム直後にご主人が急きょ入院される事態が発生しました。一時的な独居を余儀なくされたのですが、その間の生活は

上記各事例についての詳細、その他の優れた福祉住宅の実例を、先般8月に発行した「福祉住宅建築助成実例集ふれあい」の最新号にて紹介しております。閲覧・ご希望の方は当財団までご連絡ください。

公益財団法人

「ノーマライゼーション住宅財団」の活動を紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。詳しくは当財団（2頁参照）へお問い合わせください。

当財団の詳細につきましては、ホームページ（<http://normalize.or.jp/>）をご覧ください。

1 助成金により福祉住宅の建築を支援しています

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対して助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰いたします（本号16頁参照）。

審査は大学教授、一級建築士、プロダクトデザイナーなど、建築・福祉に造詣が深い有識者により行われます。本年度も下欄要項の通り募集しております。どうぞご応募ください。

2 福祉住宅建築助成実例集『ふれあい』を発行しています

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。

地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配付されており、福祉住宅として新築・リフォームを考えている方や関心のある方にお役立ていただいております。

平成二十九年七月に通巻二十八号発行。バックナンバーにつきましては当財団までお問い合わせください。

暮らしやすい住まいづくりに
助成金給付!

平成29年福祉住宅建築助成 応募要項

応募期間	平成29年5月1日～平成29年11月30日 締め切り間近	主催	公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
対象	福祉住宅や福祉小規模集合住宅として新築またはリフォームした建築主	後援	北海道、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、札幌市、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、北海道デザイン協議会
助成金	一件あたり5万円から最高30万円までただし、総額300万円の範囲内	応募先	公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団 〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3 ルーブル16 9階 TEL.011-613-7551 FAX.011-612-8431 URL http://normalize.or.jp/
応募方法	設計士、施工会社、医療・介護関係者などのアドバイスを含め、福祉住宅として工夫・配慮した点などを当財団所定の申請書に記入し提出。（申請書は当財団ホームページからダウンロード）		
審査	当財団委嘱の有識者による審査委員会にて選考		

ノーマライゼーション住宅財団

[目的]

ノーマライゼーションの理念に基づき
高齢者や障がい者が安全で安心して
快適に暮らせる住生活環境の
整備・向上を通して、すべての人が
生きがいをもって生活できる社会づくりと
社会福祉の増進に寄与

*ノーマライゼーションとは：
高齢者や障がい者も社会で共に暮らし、
共に生きることがノーマル(正常)である
という考え方

[事業]

福祉住宅の建築に関する
助成及び情報提供事業

- 1 助成金による福祉住宅
建築支援
- 2 福祉住宅建築助成
実例集「ふれあい」発行



ノーマライゼーション理念の
普及啓発事業

- 3 広報誌
『WITH LIFE ~共に生きる』
発行
- 4 小中学生による「安全・快適
アイデア」コンテスト
- 5 福祉事情に関する情報収集
及び提供



[対象]

建築系・福祉系
教育研究機関

地方自治体
建築部門

福祉住宅
施工会社

福祉住宅
建築主

一般市民

福祉団体

社会福祉
協議会

地方自治体
福祉部門

小中学生
学校教員

社会福祉の増進に寄与
ノーマライゼーションの定着

3 広報誌『WITH LIFE』共に
生きる』を発行しています

生涯、快適に暮らしたい。をテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。

ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

原則年二回刊、地方自治体および社会福祉協議会など関係諸機関に配付されています。

平成二十九年十一月、本号、通巻四十六号発行。バックナンバーにつきましては当財団までお問い合わせください。

4 小中学生による「安全・快適アイデア」コンテストを実施しています

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活できるための、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

有識者の審査により選考された入賞作品は小誌『WITH LIFE』に掲載(45号参照)、また、さっぽろ地下街オーロラコーナーにて展示(平成三十年一月予定)。当財団ホームページでもご覧いただけます。

なお、当事業は長年の実績が評価され「第一回北海道デザインアワード」において北海道デザイン協議会賞を受賞しました。

■小中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト応募要項(次回予定)

「応募資格」小・中学生の皆さん

「規格」画用紙(八つ切り)。画材は自由

「募集期間」平成三十年六月一日～十月三十一日

「応募方法」一人一点。所定の応募票(当財団ホームページからダウンロード)に必要な事項を記入し、作品の裏に添付

「賞」最優秀賞一点、優秀賞三点、優良賞五一点、佳作十一点

「作品送付・問合せ先」当財団へ(2頁参照)

5 福祉事情に関する情報収集及び提供
をしています

福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者などに呼び掛け、各地の福祉施設や福祉事情などを視察し、小誌『WITH LIFE』でレポートを発表し、また「報告集」を発行しています。ご希望の方はご連絡ください(無料)。

次回視察研修は、本年十一月八日～十一日に「京都・大阪・奈良」を予定しています(締切済)。



生涯、快適に暮らしたい。